



AIを「思い通りに動かすための設計された指示文」。それがプロンプトです。

# 成果が変わる！プロンプトの書き方、教えます！



ChatGPTやCopilotを使っても「うまく出てこない…」と感じたことはありませんか？その原因の多くは“伝え方”にあります。生成AIは、正しく指示すれば驚くほどの成果を発揮します。成果を最大化するためのプロンプト設計の基本から、ビジネス現場で使える具体例、応用テクニックをしっかりと解説します。

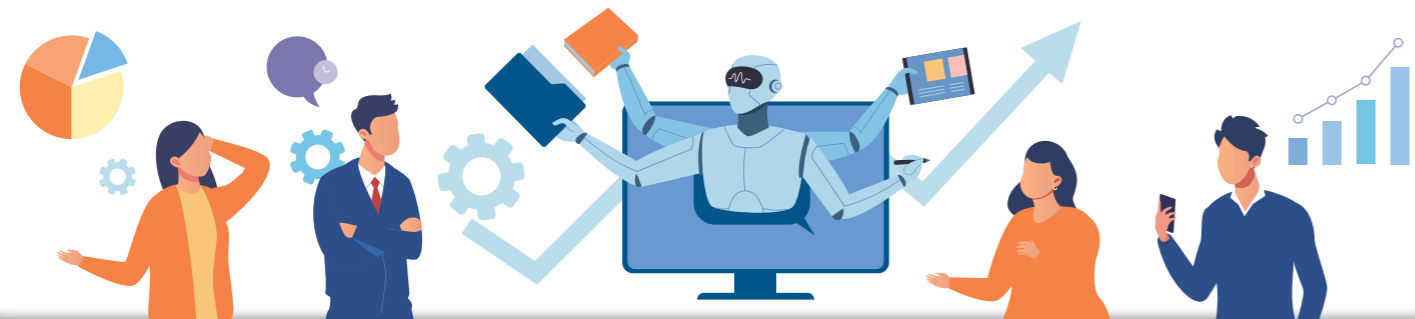
## “AIに何をどう伝えるか”で成果が変わる：プロンプト設計の基礎と応用



「プロンプト」というワードを耳にしながらも、いざ実践に移すと「どこまで具体的に書けばいいのか」「何をどう指示すれば最適なのか」がわからないという声は少なくありません。特に企業でChatGPTやCopilotなどの生成AIを導入・活用する際は、プロンプト設計の善し悪しが結果を大きく左右します。「プロンプトの基礎を“いまさら”聞けない方に向けた整理」「上手な指示文の具体例」「業務に即した応用テクニックと導入事例」を一挙に解説します。AIをこれから積極的に使おうと思っている人でも分かりやすいよう、最初は基本から、最後は一步踏み込んだ応用まで順を追ってまとめました。

### 最初に、上手なプロンプトと一般的なプロンプトの違いを整理します。

分類	一般的なプロンプト	上手なプロンプト
目的の具体化	「〇〇を教えてください」と尋ねるだけ	ゴールや読者、文体、文字数、必要項目を明確化
要素の網羅性	指示が漠然で抜け漏れが生じやすい	予算・スケジュール・リスクなど細かい項目を列挙
検証・フィードバック	一度きりで終わりがち	出力を確認後に微調整し、再度プロンプトを改善
メリット	おおまかな概要は得られるが修正が多くなりがち	適切な方向性 & 高い完成度を一度で得やすく、手戻りも減る



### 一般的なプロンプトとは

多くの人が最初に行うプロンプト(指示文)は、「なんとなく要望を伝える」レベルにとどまります。目的や条件、出力形式などが曖昧なまま依頼してしまうケースです。

このようなプロンプトでは、AIは「どんな内容を、どんな相手に、どんな目的で」作ればいいのか分からず、結果、求める回答を生成してくれず、むしろ非効率になることも…



●意図とズレた内容になる



●何度も再修正・再依頼が必要になる



●出力のクオリティが安定しない

### 上手なプロンプトとは

一方で、上手なプロンプトとは「最初の一文で、AIを正しい方向に導く」ことを意識して書かれています。目的・背景・役割・条件・成果物の形式までを明確に伝えることで、AIが的確に判断・構成できるようになります。

たとえば、「営業向けの社内研修で使うスライド原稿を作成してください。目的は“生成AIの基本理解”です。対象はOA商社の営業担当者で、IT初心者も多いです。トーンは親しみやすく、専門用語はかみくだいて説明してください。スライド構成案(タイトル+3~5行の説明)で10枚分作成。」ここまで具体的に指示することで、AIは

想定読者(誰に) 意図(何のために) トーン(どんな雰囲気) 形式(どのように出力するか)

を正確に理解し、一度で目的に近い成果物を生成します。結果として、修正の手間が減り、作業スピードも品質も大きく向上します。**つまり上手なプロンプトは、“AIを動かすスキル”ではなく、“思考を構造化するスキル”なのです。**



では、実際のシーンに合わせたプロンプトの書き方「**テンプレート**」をみましょう。

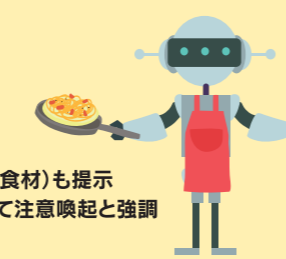
### ●美味しいカルボナーラの作り方を知りたい場合

一般的なプロンプト 美味しいカルボナーラの作り方を教えて。 → 回答の懸念 「美味しい」の基準(本格的/簡単など)や調理者のレベルが不明で、ありきたりなレシピしか得られない。 修正回数 平均3回

**上手なプロンプト**

あなたはイタリアンレストランの一流シェフです!あなたの料理教室に、初心者が参加しました。失敗しない本格的なカルボナーラの作り方を教えてください。以下の条件を必ず満たしてください。

- コンセプト:生クリームを使わないイタリアの伝統的なレシピをベースにする
- 対象者:料理初心者
- 調理時間と場所:30分以内で自宅の普通のキッチン
- 材料:日本のスーパーで入手しやすい食材(2人前)で記載。その食材がない場合の代替案(代わりの食材)も提示
- 手順:番号付きリスト(箇条書き)で記述し、特に初心者が失敗しやすいポイントを【シェフのポイント】として注意喚起と強調
- 形式:見出しと箇条書きを用いて料理の専門用語を用いず、分かりやすく解説すること




### ●生成AIに関するウェビナーの企画を考えたい場合

一般的なプロンプト 生成AIのウェビナーを企画して。 → 回答の懸念 対象者や目的が不明なため、アイデアが発散し、ありきたりな企画しか出てこない。 修正回数 平均5回

**上手なプロンプト**

あなたはクラウドサービス企業のマーケティング担当者です。リード(見込み)獲得を目的とした生成AIに関するウェビナーの企画書を作成してください。特にDXを推進したいけど、なかなか難しいと難している経営者、クラウドサービスとDXの関係性があまりよくわからない、メリットを理解できていない経営者にDX推進に欠かせないツールとしてクラウドを理解して欲しい。

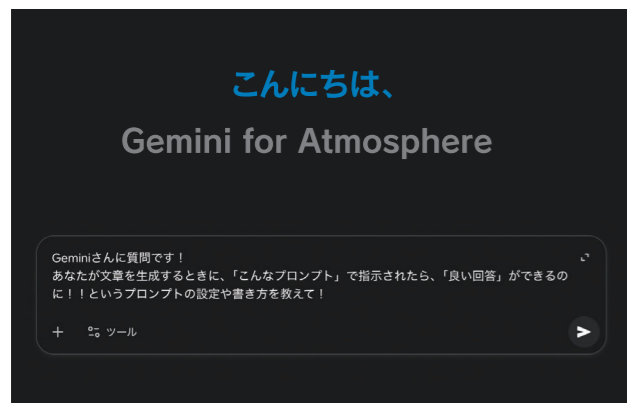
- ターゲット:従業員50名以下の中小企業の経営者。クラウドに関する知識はそれほど深くない
- ウェビナーのゴール:参加者が「自社でもクラウドサービスを便利に使えそうだ」と感じること
- 作成して欲しい企画内容・コンテンツ:
  - 1.魅力的なタイトル案を3案:専門用語をできるだけ使わずに
  - 2.開催概要(開催日時、時間、形式):忙しい経営者の方が参加しやすい、したくなるような設計で
  - 3.案内分やリーフレットへの記載内容の整理(時間配分を含め、事例紹介を中心に構成)
  - 4.集客方法のアイデア(SNS広告、メールマガジンなど)
- 制約条件:講演時間は60分とする
- 形式:企画書として、見出しを立てて分かりやすく整理すること、成功へのポイントや注意点を明記して欲しい



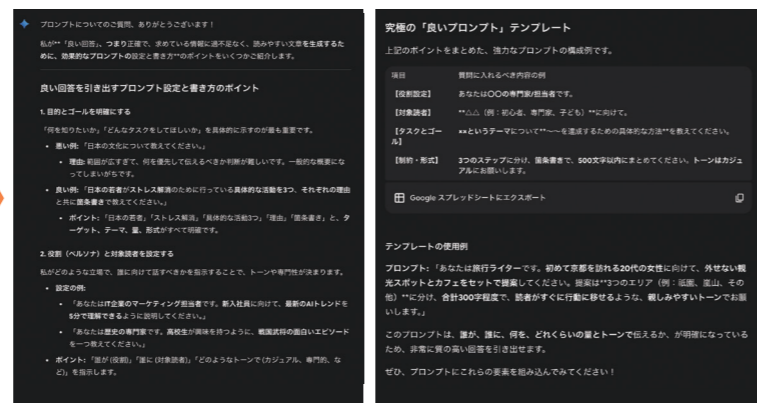
## 逆質問と1回で終わらない!

上手にプロンプトで指示したつもりでも、期待通りの回答をくれるとは限りません。**一番重要なのは、「1回」で終わらないことです。何度も何度も、AIと会話して、ブラッシュアップしてみましょう。AIに逆質問してみることも効果的です。**実際の画面を見てみましょう。

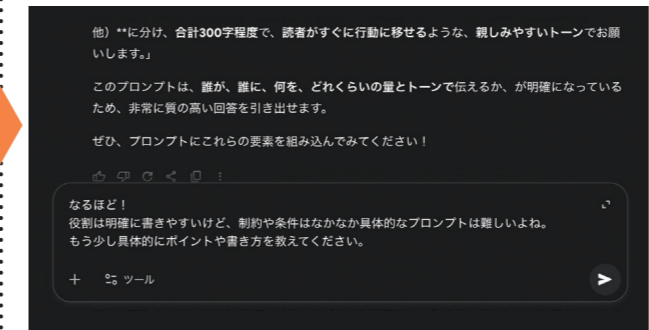
### ①まずは、Geminiに簡単に質問してみました。



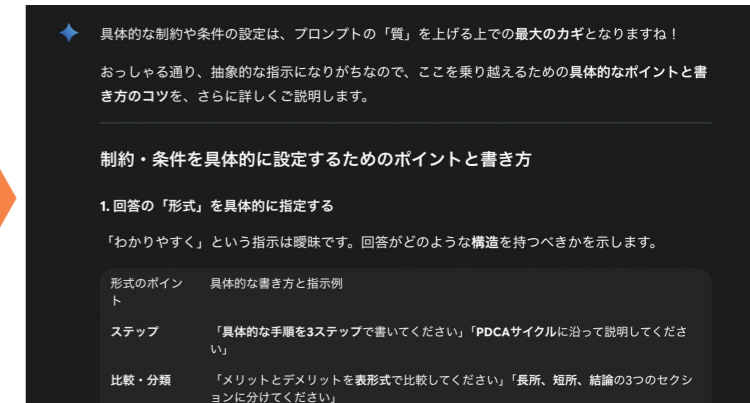
### ②Geminiの回答の一部分です。



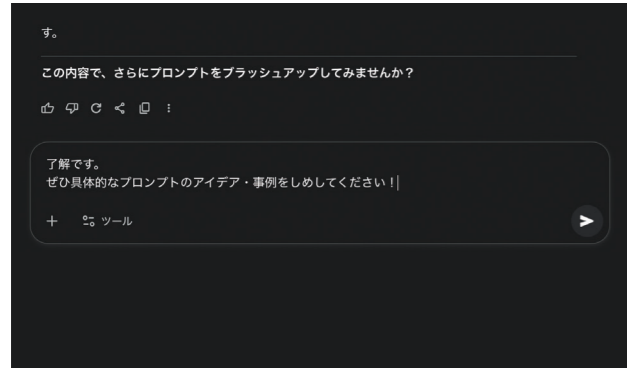
### ③Geminiの回答に対して、「ちょっとわからない」「もっと教えて欲しい」ことを再質問プロンプトを指示。



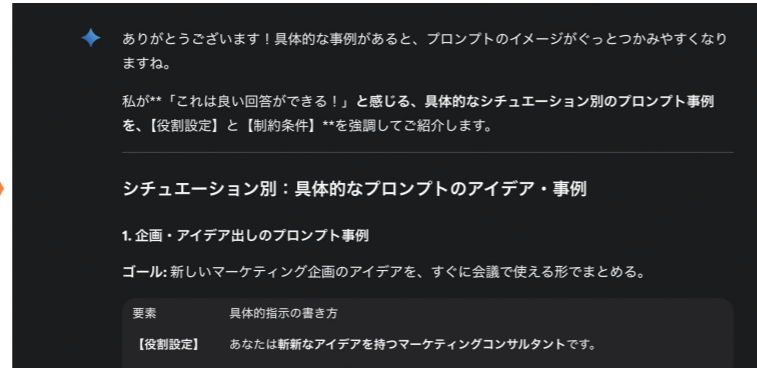
### ④再質問に対するGeminiの回答。



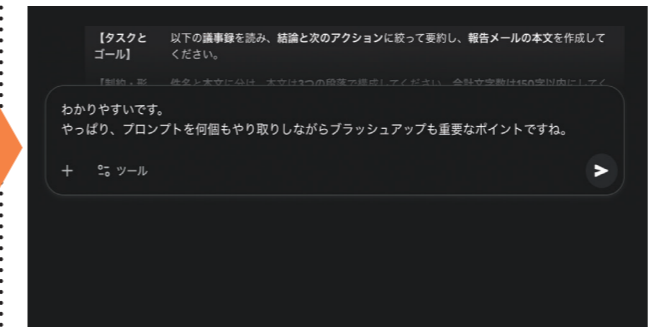
### ⑤今度はGeminiから逆提案してくれました。



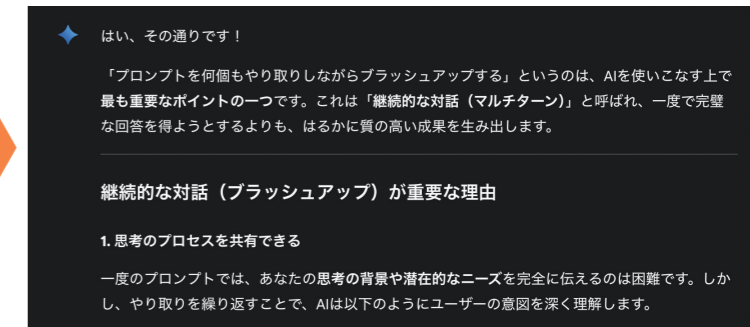
### ⑥お願ひしてみたところ、以下の回答を生成してくれました。



### ⑦やはり何度も何度も繰り返し対話することが重要です!



### ⑧Geminiもブラッシュアップ(繰り返しの対話)の重要性を示しています。



## まとめ



生成AIは、特別なスキルを持つ人だけのツールではありません。少しずつ「伝え方」に慣れていけば、誰でもその力を引き出すことができます。プロンプト設計は、学ぶよりも慣れることが何よりの近道です。完璧を目指すより、まずは試して、修正して、また試す。その繰り返しで、AIとの「共同作業」を自然なものに変えていきます。ぜひ、日常的に業務で生成AIを活用してみてください。

**今回はあらためて「プロンプト」の書き方を復習しました。著作権や機密情報のアップロード等々には充分注意も必要ですが、社内でポリシーやルール、教育(モラルや使い方・注意点)をしっかりと実施し、生産性向上のためAIを正しく使いましょう。**

ぜひ、ご相談ください!  
御社のDX伴走パートナーであり続けます。

